

男子用 カリブーの毛皮製のアノラック〈クリタック〉 A0101

ケベック／カナダ

極北を生きる

参照資料

イヌイット百科事典 1
巻「17 昔の衣服の材料」
「18 昔の冬服」

『国立民族学博物館展示
ガイド』 アメリカ p.3

着付方法：

下着を着てから、
セーターを着るよう
に頭からかぶるだ
け。



ᑭᑦᑭᑦᑭᑦ



イヌイットの冬服は、アザラシやカリブーの毛皮でつくられており、世界でもっとも優れた防寒着です。アノラックとよばれる外とは、顔を出す部分と袖口以外にはすきまがなく、大きめにつくっているのので、服と身体との間に暖かい空気の層ができ、これが保温のはたらきをしています。

岸上先生からのひとこと

毛皮で作られた衣類は、強烈な異臭を放ちます。これはイヌイットの生活のにおいのひとつと言えます。
ちなみに零下30、40度の世界では、無臭に近い状態になります。

男子用 カリブーの毛皮製のズボン〈カルリック〉 A0102

ケベック／カナダ

極北を生きる

参照資料

イヌイット百科事典 1
巻「17 昔の衣服の材料」
「18 昔の冬服」

『国立民族学博物館展示
ガイド』 アメリカ p.3

着付方法：

私たちが下着を身につけてから、ズボンをはくのと同一要領です。



ᑭᑭᑭᑭ



イヌイットの冬服は、アザラシやカリブーの毛皮で作られており、世界でもっとも優れた防寒着です。アノラックとよばれる外とは、顔を出す部分と袖口以外にはすきまがなく、大きめにつくっているため、服と身体との間に暖かい空気の層ができ、これが保温のはたらきをしています。

岸上先生からのひとこと

イヌイットのズボンが短いのは、毛皮の長いブーツをはくためです。大人の男性用ズボンには小便をするためのチャックはありません。幼児用の上着とズボンが一体になった子供服では、またの部分に小さな穴がけられており、寒いときには服を着たまま大便ができるようになっています。

男子用 アザラシの毛皮製の手袋〈プアルク〉 A0103

ケベック／カナダ

極北を生きる

参照資料

イヌイット百科事典 1
巻「17 昔の衣服の材料」
「18 昔の冬服」

『国立民族学博物館展
示ガイド』 アメリカ
p.3



イヌイットの手袋（親指とそれ以外の指が入る二またのミット）は、カリブーやアザラシの毛皮でつくられています。軽いうえに丈夫で、かつ寒さから手の部分を守ってくれます。

岸上先生からのひとこと

私たちが冬に使っている5本指の手袋とはちがひ、イヌイットの手袋は二またのキャチャーミットのようなものです。とくに防寒に優れていますが、その手袋を着用したままで小さなモノを拾ったり、つかんだりすることは、少々難しいです。冬季にスノーモービルを利用して狩猟に行くときには、ハンターは市販の手袋ではなく、カリブーの毛皮製の手袋を着用します。

男子用 アザラシの毛皮製のブーツ〈カミク〉 A0104

ケベック／カナダ

極北を生きる

参照資料

イヌイット百科事典 1
巻「17 昔の衣服の材料」
「18 昔の冬服」

『国立民族学博物館展示
ガイド』 アメリカ p.3

着付方法：

現在ではソックスを
はいたうえに、はき
ます。



676



イヌイットの冬用の靴は、アザラシやカリブーの毛皮でつくられており、世界でもっとも優れた防寒着です。雪靴は三層の毛皮からつくられています。

岸上先生からのひとこと

毛皮製のブーツは、軽いうえに大変暖かです。

しかし、滑りやすく、慣れない私は軽い坂になっている場所で何度も転んでしまいました。ブーツは、通常、実用品であり、多くの地域では模様や装飾はつけられることがありませんでした。最近では、個人のファッションとしていろいろなおしゃれな模様がつけられるようになってきました。

女子用 布製のダッフルコート〈アマウティク〉 A0105

ケベック／カナダ

極北を生きる



◁ L ▷ 〇

参照資料

イヌイット百科事典第
1巻「20 現代の衣服」

着付方法：

セーターや日本のね
んねこのように頭か
らかぶります。



綿布でつくられたフード付きの防寒用コートです。羊毛糸の紐がつけられています。
フードの顔を出す部分のまわりにはホッキョクキツネの毛皮がぬいつけられています。

岸上先生からのひとこと

女性用のダッフルコートには二種類があります。

ひとつは男性用パーカーと同じく防寒着です。もう一つは乳幼児を背中に背負うことができる外出用のねんねこです。イヌイットの小学生や中学生の少女は、妹や弟の面倒をよくみます。小さな子どもを背中に背負い、村の中を連れ歩いている姿をよく目にします。